

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年6月

根室市健康福祉部介護福祉課

在宅介護実態調査の概要

1. アンケート調査の目的

本調査は、要介護者の在宅生活の継続や介護者の就労継続に有効な介護サービスのあり方を検討し、第9期介護保険事業計画の策定のための基礎資料とするため実施したものです。

2. 調査の対象者及び実施期間

調査対象者	介護認定の更新申請及び区分変更申請の対象者で、在宅介護を受けている者
調査方法	認定調査員による聞き取り
実施期間	令和4年9月12日～令和4年12月28日
回答者数	249名

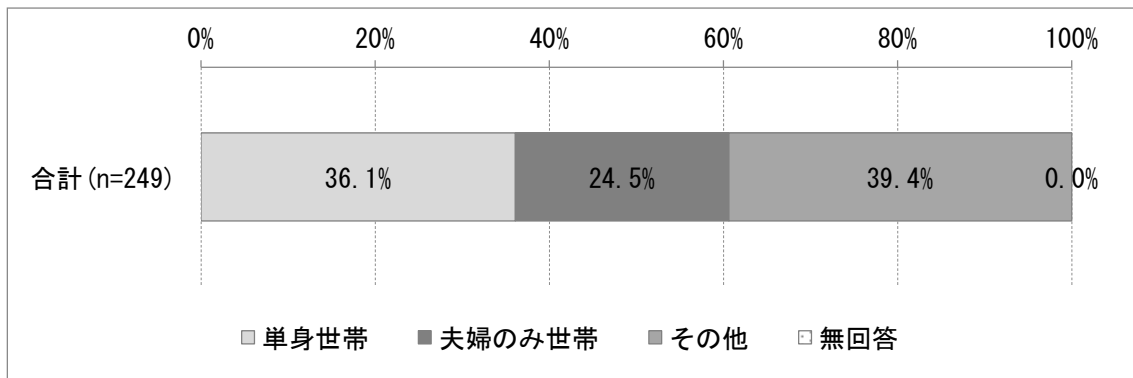
※ 医療機関に入院している方、介護施設等に入所又は入居している方は調査の対象となっておりません。

3. 集計結果

(1) 基本調査項目

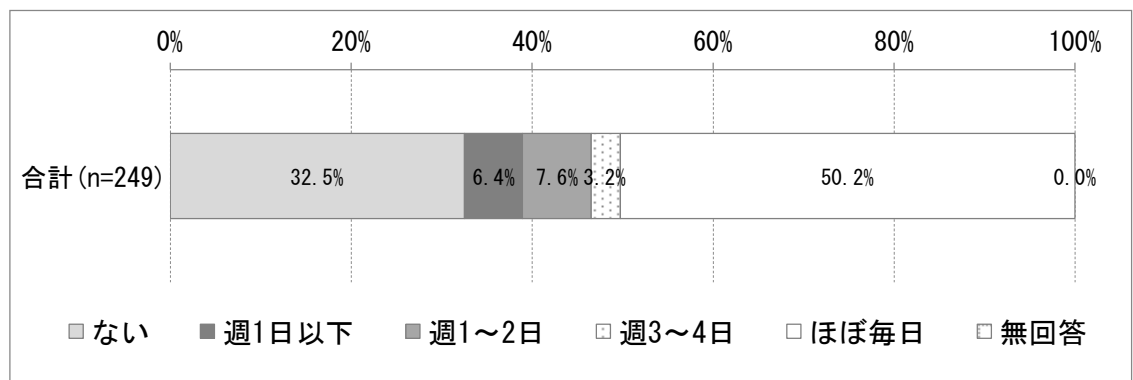
① 世帯類型

世帯類型について、「単身世帯」が36.1%、「夫婦のみ世帯」が24.5%、「その他」が39.4%となっています。



② 家族等による介護の頻度

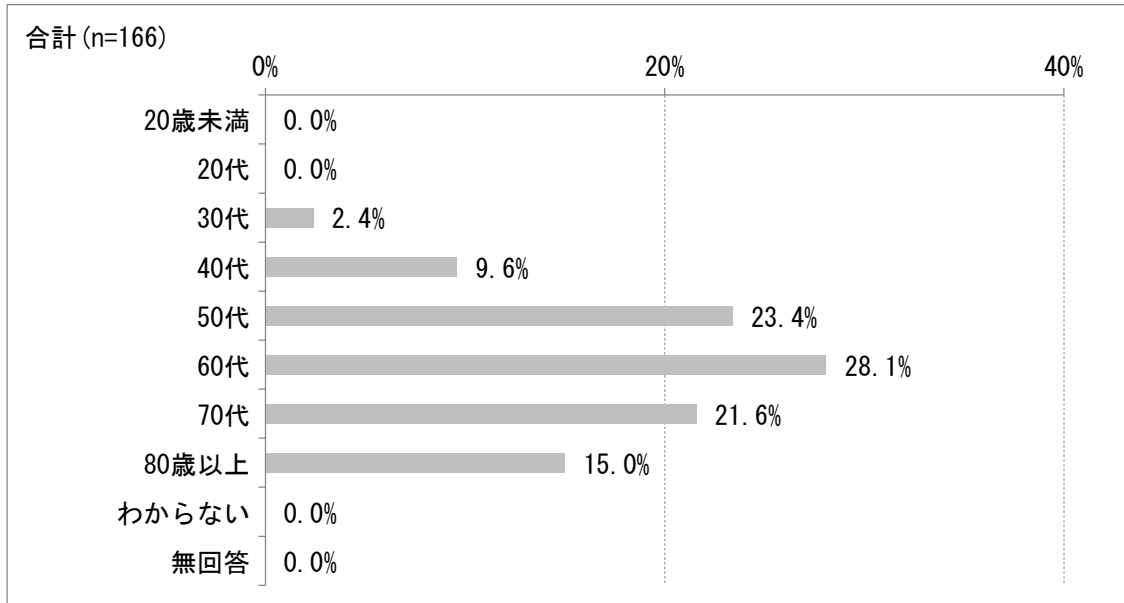
家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日」が50.2%、次いで「ない」が32.5%、「週1～2日」が7.6%、「週1日以下」が6.4%、「週3～4日」が3.2%となっています。



(2) 主な介護者の調査項目

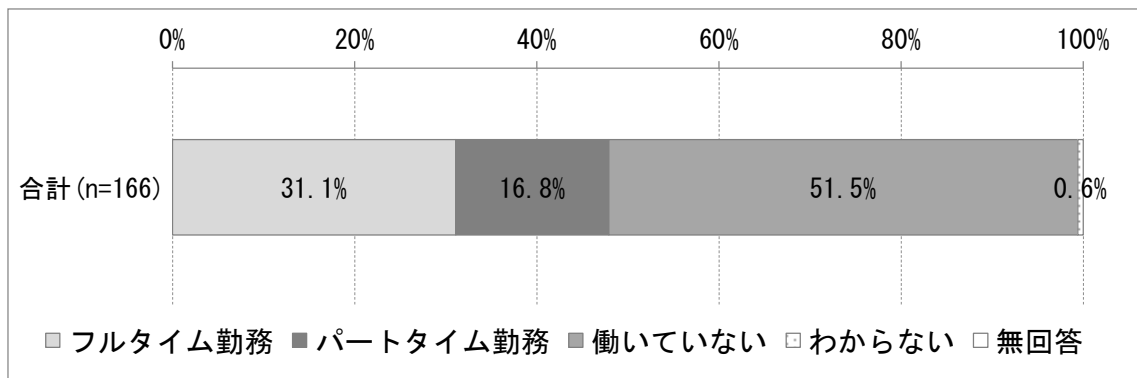
① 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「60代」が28.1%と最も高く、次いで「50代」が23.4%、「70代」が21.6%、「80歳以上」が15.0%と、50代以上の割合が高くなっています。



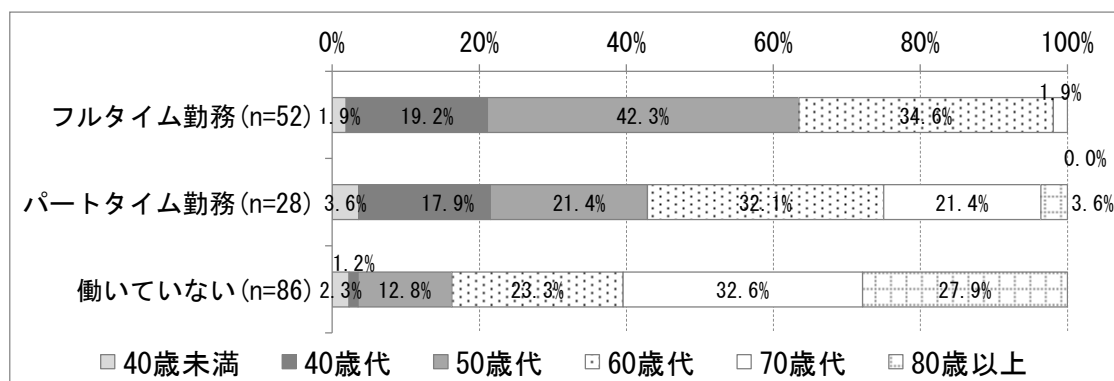
② 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が51.5%、「フルタイム勤務」が31.1%、「パートタイム勤務」が16.8%、「わからない」が0.6%となっています。



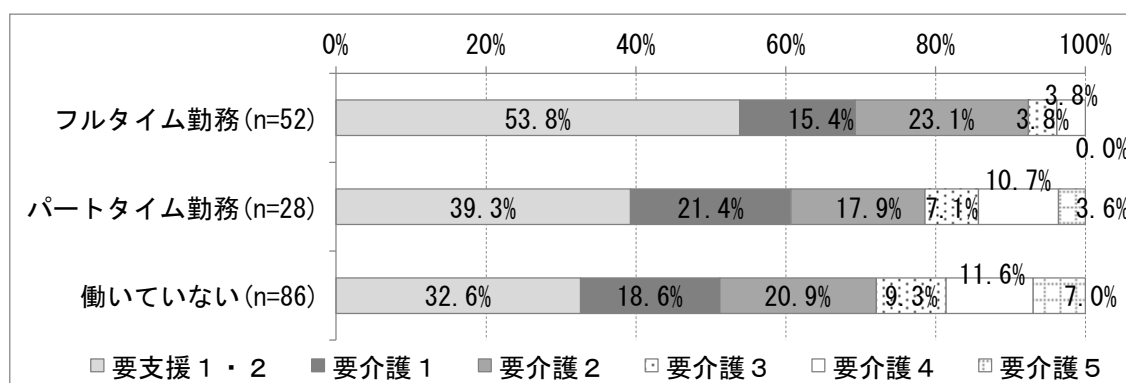
③ 就労状況別・主な介護者の年齢

就労状況別における主な介護者の年齢は、フルタイム勤務では「50歳代」42.3%、次いで「60歳代」が34.6%となっており、パートタイム勤務では「60歳代」が32.1%、次いで「50歳代」、「70歳代」が21.4%となっており、働いていないでは「70歳代」32.6%、次いで「80歳以上」が27.9%となっています。



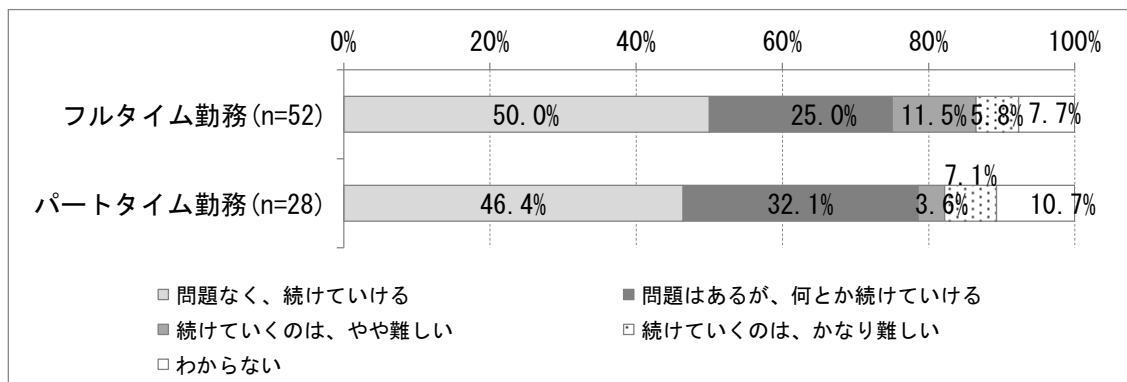
④ 就労状況別における要介護度

就労状況別における要介護度は、フルタイム勤務では「要支援1・2」が53.8%、次いで「要介護2」が23.1%となっており、パートタイム勤務では「要支援1・2」が39.3%、次いで「要介護1」が21.4%となっており、働いていないでは「要支援1・2」が32.6%、次いで「要介護2」が20.9%となっています。



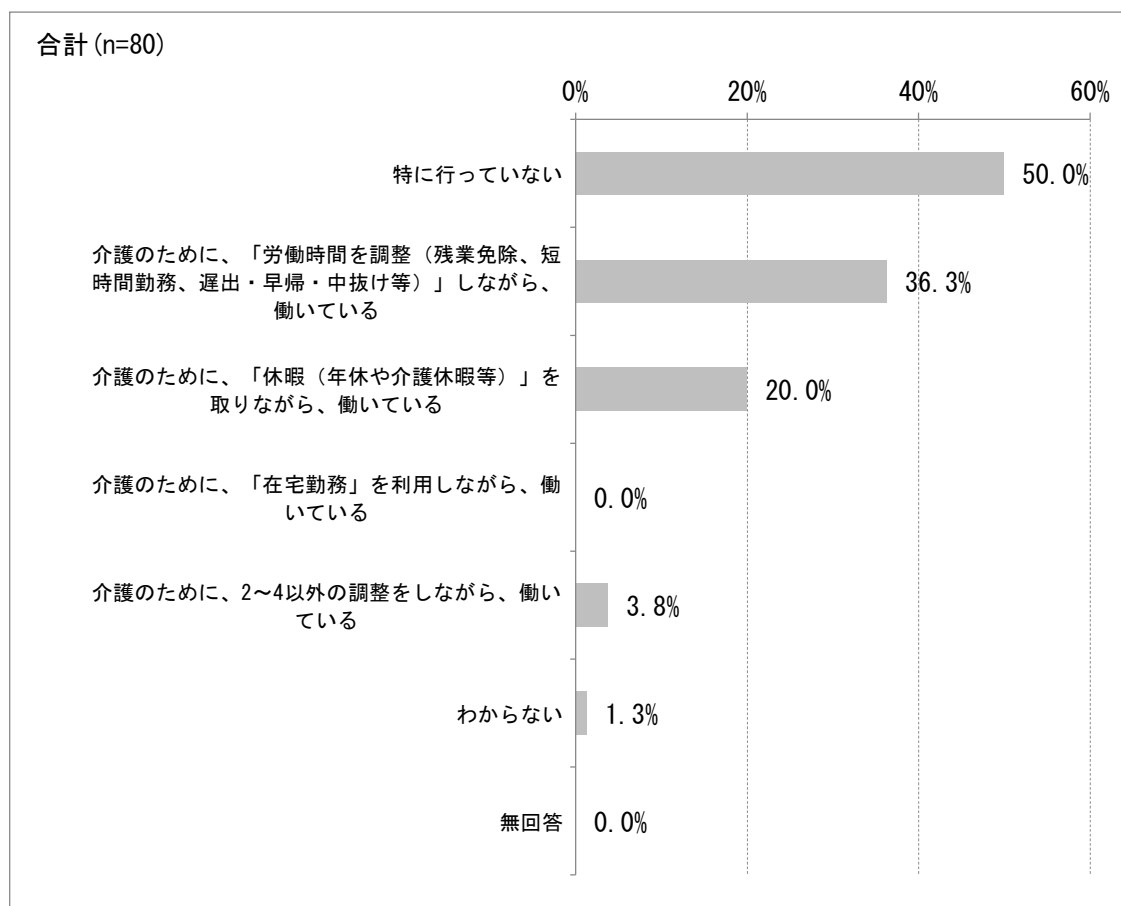
⑤ 就労状況別における就労継続見込み

就労状況別における就労継続見込みは、フルタイム勤務では「問題なく、続けていける」が50.0%、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が25.0%、「続けていくのは、やや難しい」が11.5%、「わからない」が7.7%となっており、パートタイム勤務では「問題なく、続けていける」が46.4%、「問題はあるが、何とか続けていける」が32.1%、「わからない」が10.7%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.1%となっています。



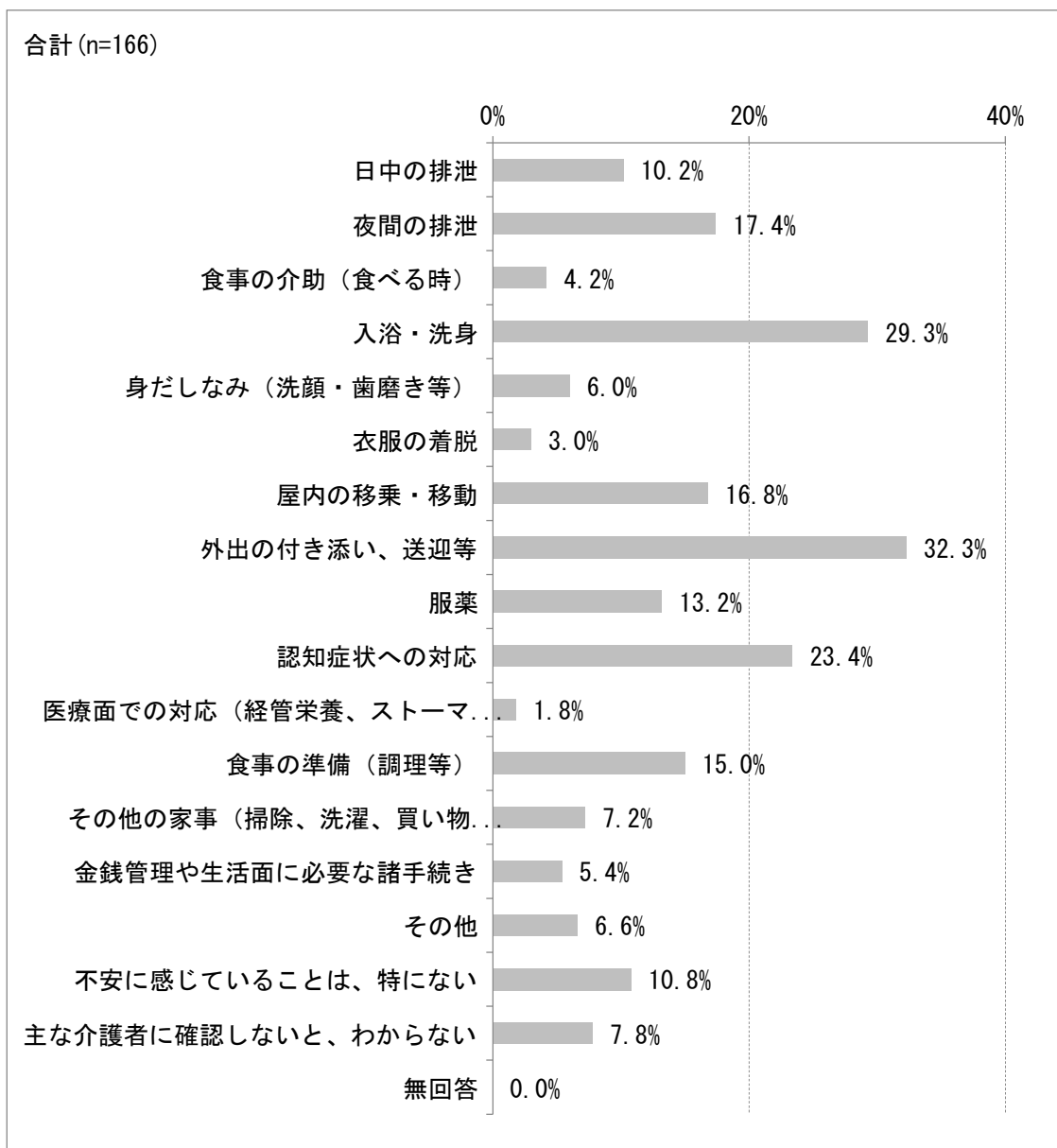
⑥ 主な介護者の方の働き方の調整

主な介護者の方の働き方の調整は、「特に行っていない」が50.0%、次いで「介護のために、労働時間を調整しながら、働いている」が36.3%、「介護のために、休暇を取りながら、働いている」が20.0%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら働いている」が3.8%、「わからない」が1.3%となっています。



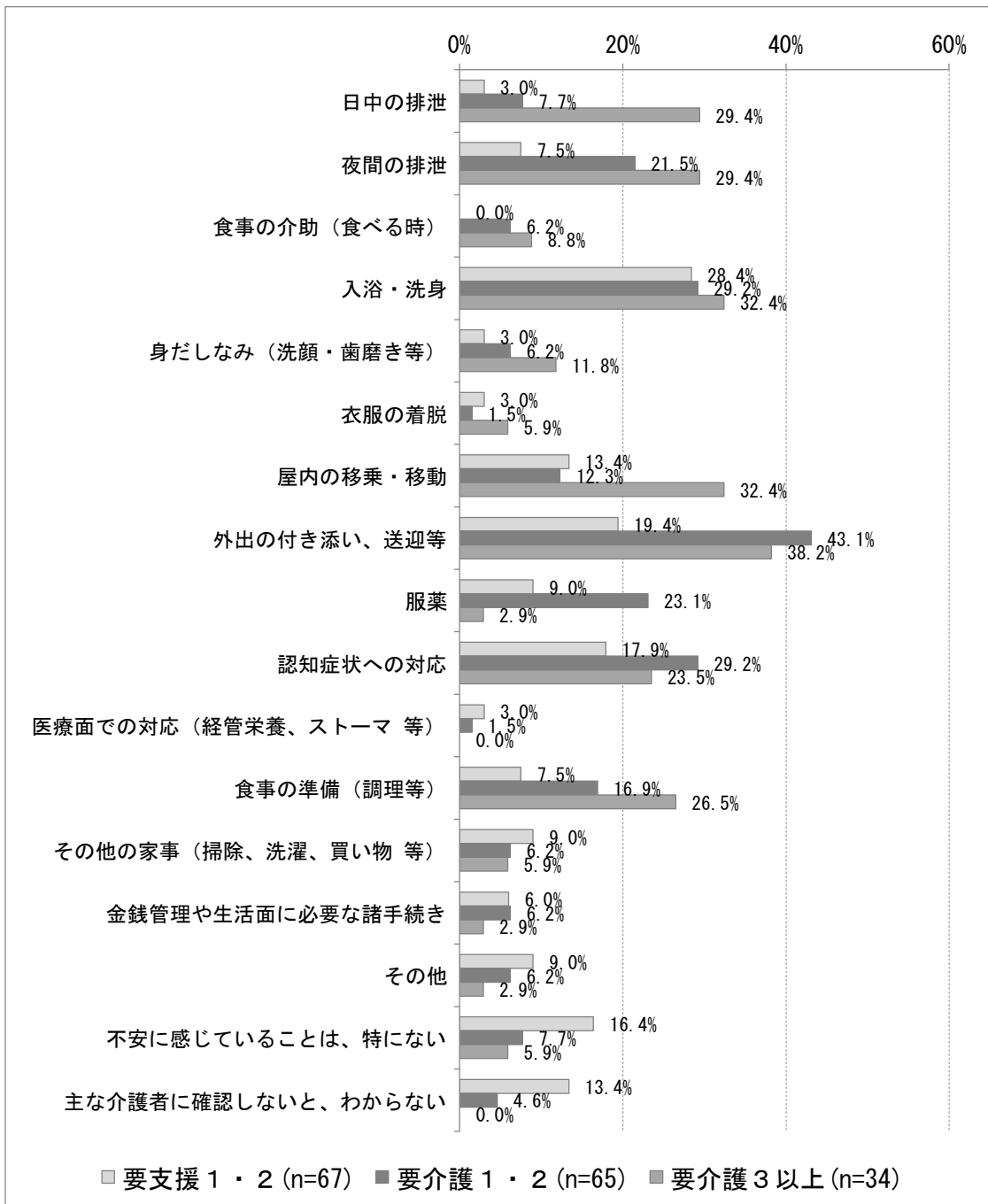
⑦ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

主な介護者が不安に感じる介護は、「外出の付き添い、送迎等」が32.3%、次いで「入浴・洗身」が29.3%、「認知症状への対応」が23.4%、「夜間の排泄」が17.4%、「屋内の移乗・移動」が16.8%、「食事の準備」が15.0%、「服薬」が13.2%となっています。



⑧ 要介護度別・介護者が不安に感じる介護

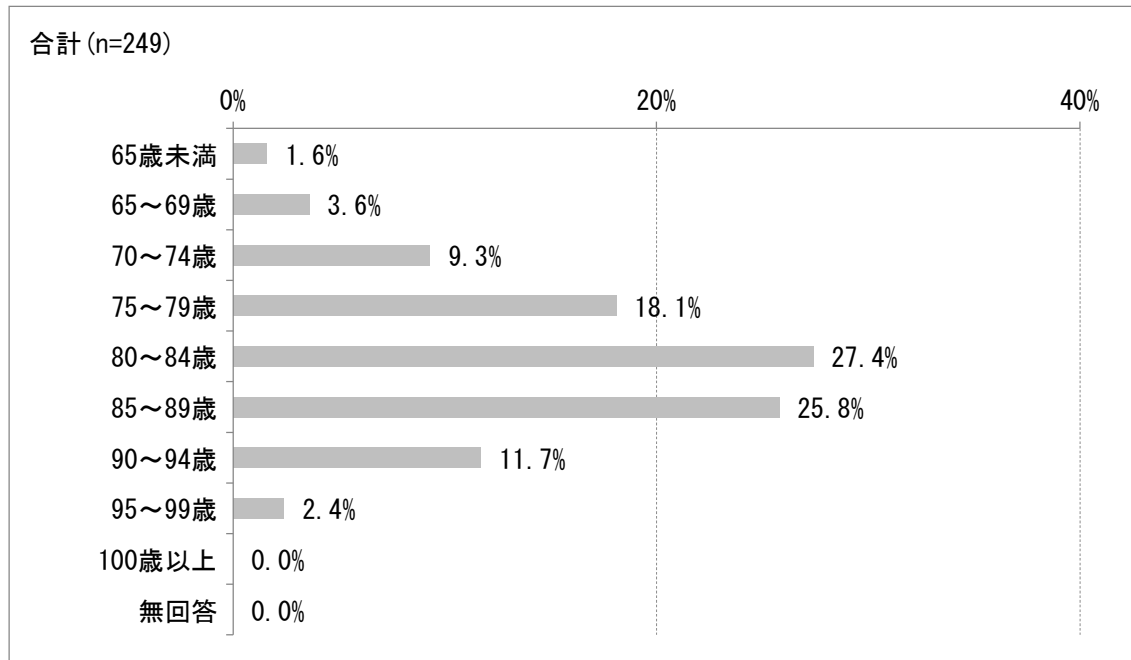
要介護度別・介護者が不安に感じる介護は、要支援 1・2 では「入浴・洗身」が 28.4%、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 19.4%となっており、要介護 1・2 では「外出の付き添い、送迎等」が 43.1%、次いで「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が 29.2%となっており、要介護 3 以上では「外出の付き添い、送迎等」が 38.2%、次いで「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」が 32.4%となっています。



(3) 要介護認定データ

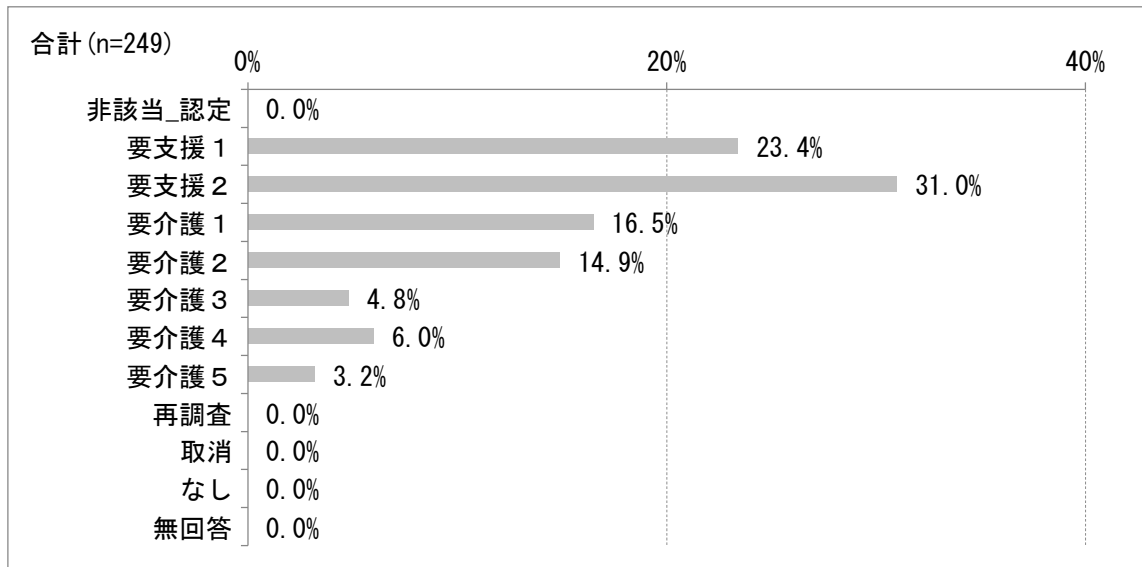
① 介護を受けている方の年齢

介護を受けている方の年齢は、「80～84歳」が27.4%、次いで「85～89歳」が25.8%、「75～79歳」が18.1%、「90～94歳」が11.7%、「70～74歳」が9.3%となっています。



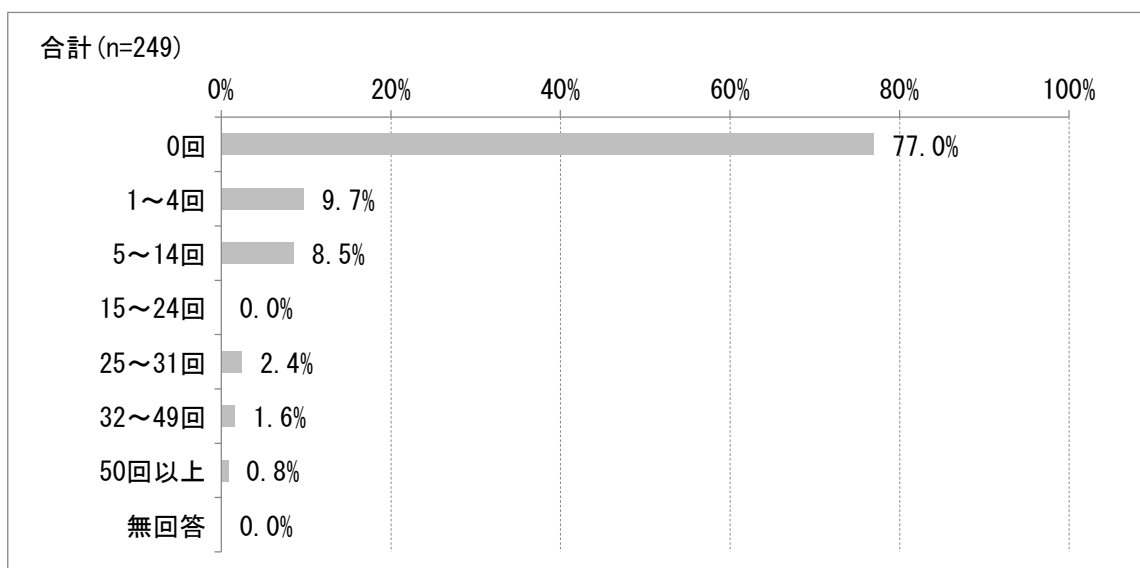
② 二次判定結果

二次判定結果は、「要支援 2」が31.0%、次いで「要支援 1」が23.4%、「要介護 1」が16.5%、「要介護 2」が14.9%、「要介護 4」が6.0%、「要介護 3」が4.8%、「要介護 5」が3.2%となっています。



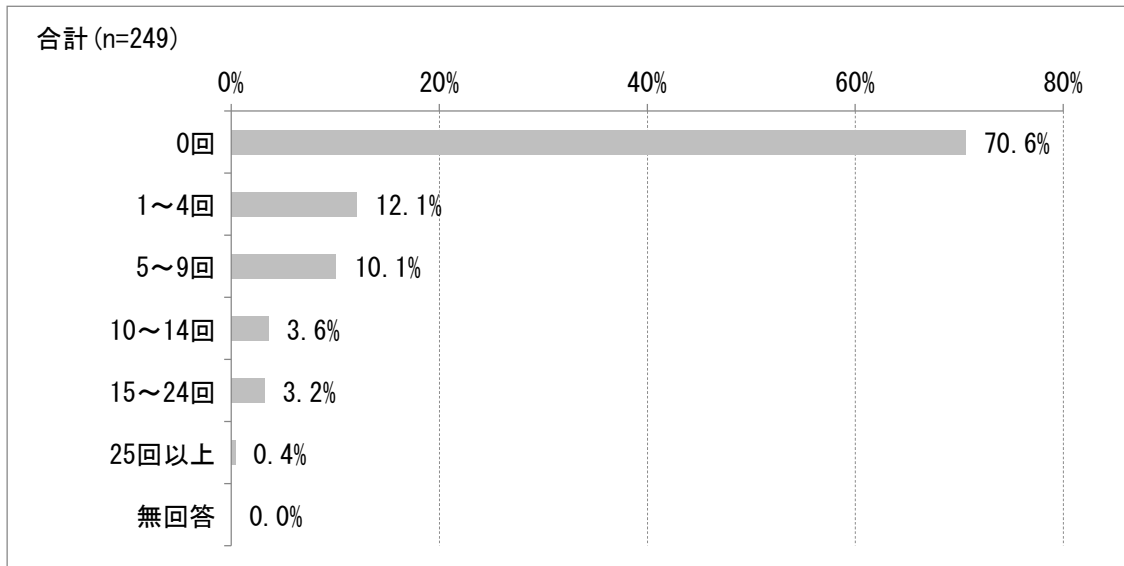
③ 訪問系サービスの利用回数

訪問系サービスの利用回数は、「0回」が77.0%、次いで「1~4回」が9.7%、「5~14回」が8.5%、「25~31回」が2.4%、「32~49回」が1.6%、「50回以上」が0.8%となっています。



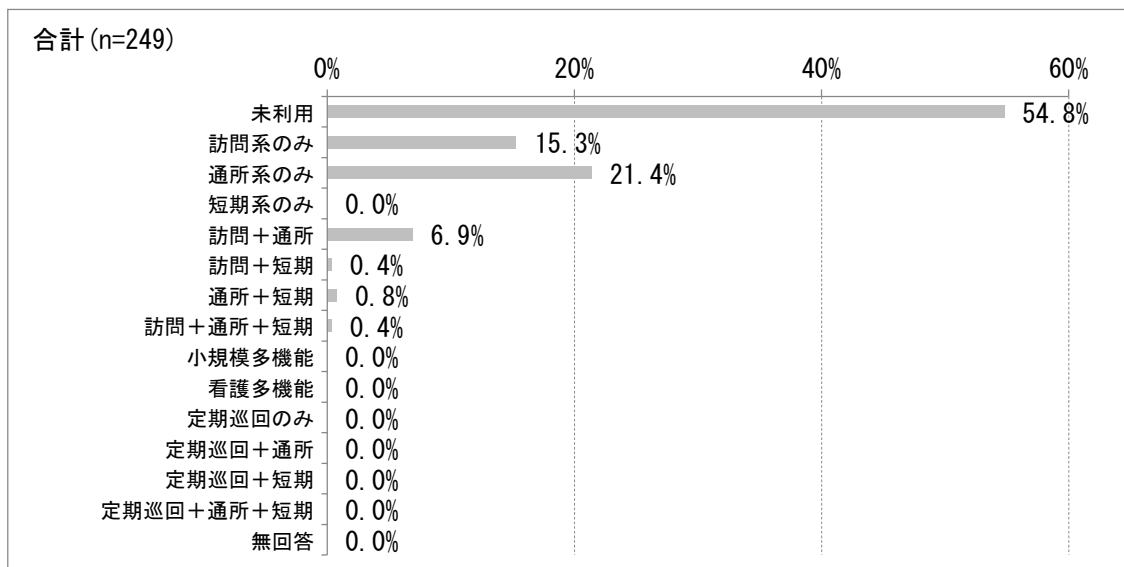
④ 通所系サービスの利用回数

通所系サービスの利用回数は、「0回」が70.6%、次いで「1~4回」が12.1%、「5~9回」が10.1%、「10~14回」が3.6%、「15~24回」が3.2%、「25回以上」が0.4%となっています。



⑤ サービス利用の組み合わせ

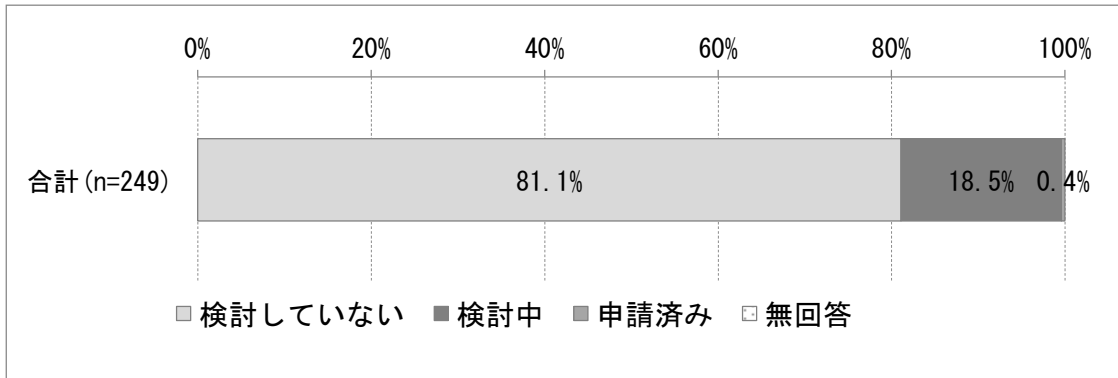
サービス利用の組み合わせは、「未利用」が54.8%、次いで「通所系のみ」が21.4%、「訪問系のみ」が15.3%、「訪問+通所」が6.9%、「訪問+短期」が0.4%、「通所+短期」が0.8%、「訪問+通所+短期」が0.4%、「訪問+通所+短期」が0.4%となっています。



(4) 主な介護者及び調査対象者の調査項目

① 施設等検討の状況

施設等検討の状況は、「検討していない」が81.1%、「検討中」が18.5%、「申請済み」が0.4%となっています。

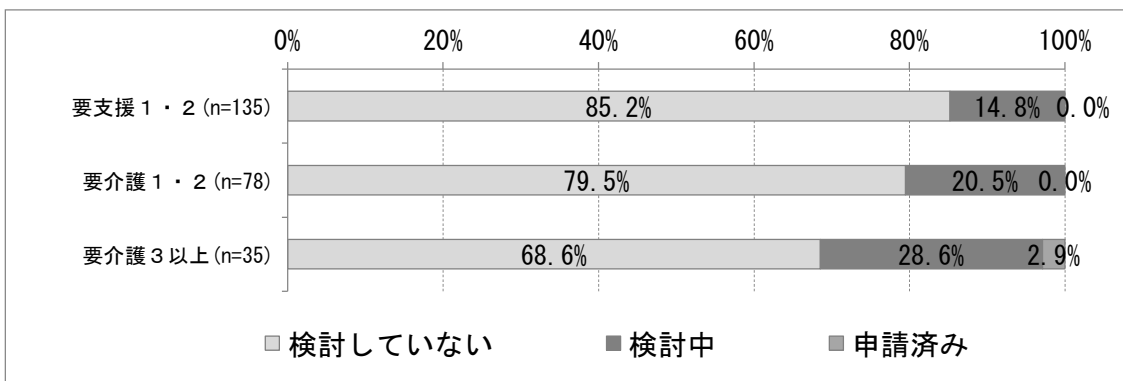


② 要介護度別・施設等検討の状況

要介護度別・施設等検討の状況は、要支援1・2では「検討していない」が85.2%、次いで「検討中」が14.8%となっています。

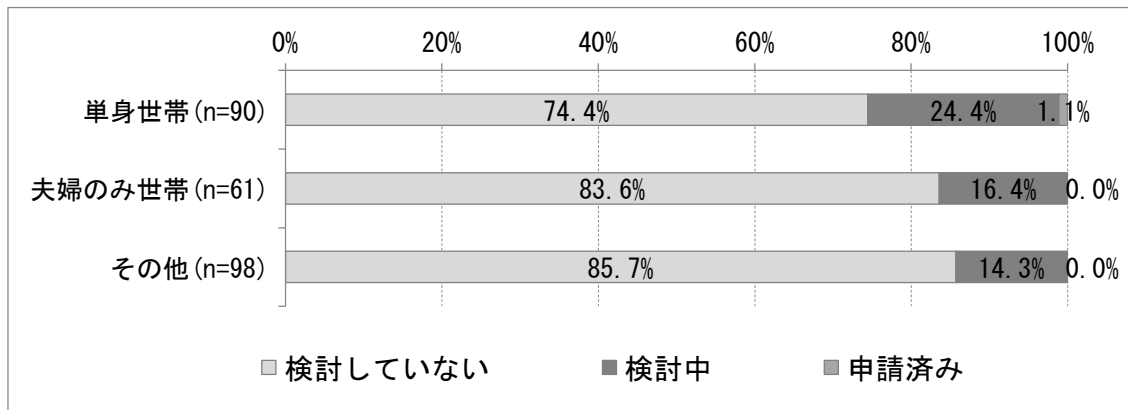
要介護1・2では「検討していない」が79.5%、次いで「検討中」が20.5%となっています。

要介護3以上では「検討していない」が68.6%、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が2.9%となっています。



③ 世帯類型別・施設等検討の状況

世帯類型別・施設等の状況は、単身世帯では「検討していない」が74.4%、次いで「検討中」が24.4%、「申請済み」が1.1%となっています。
夫婦のみ世帯では「検討していない」が83.6%、次いで「検討中」が16.4%となっています。
その他では「検討していない」が85.7%、次いで「検討中」が14.3%、となっています。



集計結果から見える課題

課題の整理

今回の「在宅介護実態調査」は、「第9期介護保険事業計画」の策定にあたり、これまでの「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点を盛り込むため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するために実施したものです。上述した観点を基に、集計結果を分析することで、以下のような課題がみえてきました。

課題 根室市における在宅介護の実態

今回調査した方のうち、50.2%が家族等からの介護を「ほぼ毎日」受けていました。年齢を見ると、「30代」から「60代」の合計が、全体の63.5%に及びました。このことから生産年齢人口（15歳以上65歳未満）であるにもかかわらず、主な介護者となることを理由に介護離職する可能性のある方が多数存在すると考えられます。実際に就労しながら介護をしている方の57.1%が「問題はあるが、何とか続けていける」、28.0%が「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と回答しています。

また、主な介護者の年齢が「70代」及び「80歳以上」の合計は、36.6%となっています。このことから、要介護者が家族や親族からの介護を受けていたとしても、その実態が「老老介護」や「認認介護」であるという問題も推測されます。

課題 就労している主な介護者への支援

就労している主な介護者の働き方の調整を分析したところ、36.3%の方が「介護のために、労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら、働いている」と回答しています。

こうした方々の介護負担を軽減するためにも、職場において介護と勤務の両立のための制度の普及が必要であると考えられます。

課題 主な介護者が抱える不安

主な介護者が不安を感じる介護については「外出の付き添い、送迎等」が32.3%次いで「入浴、洗身」が29.3%、「認定症状への対応」が23.4%、「夜間の排泄」が17.4%、「屋内の移乗・移動」が16.8%と介護者の年齢が上がってくると、在宅介護を続けられない状況も出てくると推測されます。